（大正八年三月七日第三種郵便物認可）　昭和二年八月十九日　THE IWAKUNIHO　金曜日　第四千八十九號　（一）

十八頁
日刊
岩城時報

發行人　岡田貞藏
印刷所　福島縣石城郡平町紺屋町十四番地
編輯所　福島縣石城郡平町紺屋町十四番地
發行所　磐城時報社
一部金貳錢一ヶ月金參拾錢
廣告料一行十四字詰金五十錢
△日刊（毎、祭日）休刊

政友派の評定で
候補者に數へられた人々
六名の候補者は多過ぎる
最高幹部間の意嚮

石城郡政友派の最高幹部會は昨ら見て政友派の得票も少なからず籠食さるゝものと見做すを得べく、かゝる狀態に於て政友會から六名の候補者を出さば、石城郡が如何に政友派の金城鐵壁の地盤とは言ひ却つて敵に乘せられ悲慘な結果を招來するであらうと幹部間では少なからず頭を惱ましてゐる模樣である。

即ち公認候補者を四名内外とす可く劃策中らしいが、幹部間の意嚮では井上茂作氏は氏を繞る人々は早くも井上氏後援會を組織して宣傳ビラまでを作成したと傳へられてゐるとは言へ、井上氏には明年改選さる代議士候補者として出馬する底意充分にあり而して又代議士たらしめる方が氏將來のため及び地方のため有利であるし、井上氏も縣會議員たる事は本意でないらしく、後援會に對しては寧ろ有難迷惑の感じを抱いてゐるといふから此際井上氏に縣會議員候補者たる事は辭退して貰はうといふ意向であるらしい。

然し三千八百人の多數有權者のある

平町から一名も候補者が出ないのは不利であるとして或は井上氏の勃起を見るかも知れぬと見られてゐる。更に又舊政友から山崎吉平、木村清治の兩氏が出馬する事も多過ぎる嫌ひがあるから双方共有力で殆んど當選確實とはいふものゝそのうち一人に犧牲的引退を願ひ而して候補者を四人内外として確實なる當選を期しやうといふ意嚮であるらしい。十七日の幹部會は前記の如き意見の交換があつただけで何等纏まる處がなく散會したが、來る二十八日改めて正式な豫選會を開き候補者を決定する事になつた。

石城郡政友派の最高幹部會は昨ら見て政友派の得票も少なからず籠食さるゝものと見做すを得べく、かゝる狀態に於て政友會から六名の候補者を出さば、石城郡が如何に政友派の金城鐵壁の地盤とは言ひ却つて敵に乘せられ悲慘な結果を招來するであらうと幹部間では少なからず頭を惱ましてゐる模樣である。

即ち公認候補者を四名内外とす可く劃策中らしいが、幹部間の意嚮では井上茂作氏は氏を繞る人々は早くも井上氏後援會を組織して宣傳ビラまでを作成したと傳へられてゐるとは言へ、井上氏には明年改選さる代議士候補者として出馬する底意充分にあり而して又代議士たらしめる方が氏將來のため及び地方のため有利であるし、井上氏も縣會議員たる事は本意でないらしく、後援會に對しては寧ろ有難迷惑の感じを抱いてゐるといふから此際井上氏に縣會議員候補者たる事は辭退して貰はうといふ意向であるらしい。

然し三千八百人の多數有權者のある

平町から一名も候補者が出ないのは不利であるとして或は井上氏の勃起を見るかも知れぬと見られてゐる。更に又舊政友から山崎吉平、木村清治の兩氏が出馬する事も多過ぎる嫌ひがあるから双方共有力で殆んど當選確實とはいふものゝそのうち一人に犧牲的引退を願ひ而して候補者を四人内外として確實なる當選を期しやうといふ意嚮であるらしい。十七日の幹部會は前記の如き意見の交換があつただけで何等纏まる處がなく散會したが、來る二十八日改めて正式な豫選會を開き候補者を決定する事になつた。

櫛田氏の長途騎乘馬

上遠野村櫛田彦之進氏の青森、下の關間長途騎乘は愈々十月一日から決行される事になつたので同村では櫛田氏後援會を組織して十五日同村小學校で發會式を擧行した、尚石城產馬畜產組合では名馬「吉鮮號」を提供すると

兩字が對抗し
大野村の水爭ひ
遂に告訴騷ぎ

大野村地方は昨今打續く晴天のため稻田に水の不足を生じ困惑してゐるが、同村字玉山石井某（五六）は灌漑水に困つた結果約十日程前から小川江筋の堰を毀して水を盜んでゐたのを同村大字長友の水番人に發見され長友部落民三十余名は一致して石井某を四倉署に告訴した、之を聞き

平町の將來を憂へて
敢て爲政者に與ふ
【二】

福島新聞平支局　渡邊文

平町は人口、戸數に於て順調な增加を示すと共にいよ／＼市制實施への躍進をなしつゝあり　こゝ數年後には都市としての体系を完全に整へ得るであらう、昨年末現在の戸數は四千六百四十二戸、人口二萬五千四百七十八人を算いてゐるが好景氣が來り附近諸炭礦が活況を呈するに至らばこれを劃期としてさらに人口、戸數の膨脹發展を見ると共に理想的な都市を建設する上に大なる進展を見るであらうことは誰しもが認めるところである、今大正二年來の人口、戸數の增加率を見るに

年別	人口	戸數
二年	一七、二七七	三、一〇九
四年	一八、八八〇	三、三二五
五年	一九、七〇八	三、四六一
六年	二〇、八一七	三、七〇五
七年	二〇、九八八	四、〇〇五
八年	二一、一八八	四、二九五
九年	二一、七三	四、六二〇
一〇年	二三、二九七	
一一年	二三、五六	
一二年	二四、〇四二	
一三年	二四、六七九	
一四年	二五、一四七	

年別	人口	戸數
三年	一八、三一七	三、二五〇
五年	一九、七〇八	三、四六七
七年	二〇、九八八	三、六四一
九年	二一、一八八	三、八五〇
一一年	二三、二九七	四、一六五
一三年	二四、六七九	四、四九〇

年別　戸數

で人口の增加率は一年平均六百五人であり更に戸數に於ては一ヶ年百十六戸平均に增加しつゝある割合で他都市に比し町勢の發展膨脹率は決して劣つてはいない、更に目下問題になつてゐる平、小名濱間の鐵道布設速成が實現すれば町の發展の上に大きな効驗を齎すであらう、平町の發展膨脹の現狀を偲ぶには發達し膨脹した道程を顧み今昔を對比精査して見るが最もよい方法だらうと思ふ、それには財政的方面からの觀察が最も平町の今昔を知る好材料になるであらう。平町は人口、戸數の增加、市劃の發展と共に財政及び負擔方面に於ても苦しい膨脹の後を殘してゐる、或は物價の騰貴、通貨の價値低下による豫算或は決算高の自然膨張といふやうなことも原因を爲してゐるものと見ねばならぬが、より多く人口、戸數の增加に伴ふ經費の膨張と都市としての体系をつくる經費に自然所要經費の多額を要してゐることを認めねばなるまい

（つゞく）

情婦を絞殺して
死体を海中に投ず
犯人内郷村で捕はる
美人の溺死事件後報

去る十四日小名濱町網取岬海岸で漁夫が發見した盛裝した女の溺死体の身元は十六日午後三時東京府下吾嬬町字小村井大成セルロイド會社原料職工谷由次郎の妻よし（三六）と判明したが他殺か自殺かに疑点があるので平署で調査中の事昨報の如くであるが、十六日よしの夫由次郎が平署に出頭して語る處によると、よしの情夫新潟縣北蒲原郡水原町字水原安平長男赤松潔（二四）と複雜した關係があらしいので十七日小熊警部補は刑事數名と共に内郷村に出張大字宮磐城炭礦長屋二十八號に居住する義兄池田政秀方に潛伏中の潔を捕へ取調べた處、次の事實を自白したので殺人罪として潔を平檢事局に送る事になつた。赤松潔は本年四月頃上京し前記セルロイド會社に働いてゐるうち同僚の谷由次郎の妻よし（三六）と戀に陷り、よしは其後家出して潔と府下日暮里一世帶を持つに至つたが、それ以來潔は職をやめたので食ふに困る事となり去る三日情死の相談が纏つて兩名は松島に至り更に鹽釜に行つたが思ふやうな死場がないので更に無一文で小名濱町に辿りつき十三日午後六時頃網取岬から情死す可く投身したが死に切れず再び陸に這ひ上つたが空腹と疲勞のため詮術なく、よしは潔に何とか殺して下さいと迫るので潔は手拭を以てよしを絞殺した上死体を海中に投じ自分は内郷村宮の義兄方に潛伏してゐたもので十四日死体を發見して檢死した際は全身水ぶくれとなり絞殺の跡を發見し得なかつたものであるといふ、平署からは十八日係官出張の上假埋葬に附したよし日情死の相談が纏つて兩名は松の死体を發掘しその解剖を行つた。

盜んだ厭力計を鉦として
ヂヤンガラ念佛を踊る

好間村大字北好間字木椎平熊三郎長男長谷川榮（二〇）同字丸山炭礦機械場からボイラー用壓力計を窃取しそれを鉦の代用として舊盆富日ヂヤンガラ念佛を踊つた事發覺し十七日全部平署に捕はれ目下取調中である。

四倉產婆會生る

四倉警察署管内二十四名の產婆婦は去る十六日署階上に集合し四倉產婆會を組織、會長に水谷四倉署長を推し、幹事には四倉町中野トク氏、會計幹事として阿久津貞吉氏（現署會計係）を推し

△四倉佐藤ナツ△久之濱新妻フミ△大浦酒井チウ△草野坂本キミヨ△神谷松本キン

十三人の子供の一人が海水浴中姿を消す

失心せんばかりに驚いた父親

◆…子の愛は數に制限なし

好間村大字北好間字小館魚商人中島新太郎氏は自分の子供が十三人を有し而も地方稀に見る子煩惱の人として評判であるが、十六日午前子供全部を引き連れて海水浴を行ふため四倉海岸に來り水泳中十二番目の子供新五郎（四歳）が午後二時頃行衛不明となつたので父親は大いに驚き附近の人々と協力して捜索したが發見されず、溺死したらしいので驚きと失望の余り發狂もしかねまじき姿で四倉警察署にその旨届け出でた。一方同日午後二時頃四倉町附近を泣き乍ら徘徊してゐる小供を通行人が發見迷兒として四倉署に届け出でたがそれは新五郎であつたため父親新太郎の喜びは大したもの抱きあげた上頬擦りまでして引取つたといふ。子供は幾人あつても可愛さは同じである。

本年度電話架設者決定

平郵便局に於ける本年度寄附特別開通電話の抽籤は十八日午前九時から平町役場に於て仙臺逓信局から佐藤書記出張、緒狩平署長、伏見町長代理佐藤助役等立會の上執行した結果左の如く架設者が決定した。

▲公益による優先權　平町役場

平町長住宅

▲申込順によるもの　佐々木喜平、柏原幸次郎、鈴木長三郎、高野三郎助、佐々木俊男、小齊五郎、大平德兵衛、加藤政久、大内吉太郎、田中ハナ、齋藤繁藏、比佐六平、河田梅吉、星野庸治、櫻井卯三郎、梅澤石五郎、水野龜太郎、吉田五平、谷川保太郎

▲抽籤によるもの　小宅嘉久治、小松爲善四郎、篠原留吉、佐藤巖、吉川久太郎、久保田六五郎、渡邊ミネ、鈴木一郎、宇佐美友二郎、渡邊留二郎、皆川新一、關内信二郎、芹澤嘉彦、同正忠、海野誠平、高橋武、菊田萬吉、菊田彦太郎、鈴木勝藏

▲八日久之濱町及大久村場所久之濱小學校▲十九日四倉町大浦及大野場所四倉小學校▲二十日草野村及神谷村場所草野小學校

▲日本大學講演會

日本大學福島縣人會主催の講演會は十八日午後六時から平町聚樂館で開催さるゝ筈で講師如左。

▲本會々長日本大學教授國分史樓▲日本大學教授太田徹夫▲日本大學教授青木孝義▲日本大學教授山上昶

▲計量器檢査

四倉署管内計量器檢査日割左の如し。

▲十七日大野村同村役場内▲十八日大浦村同▲十九日草野村同▲二十日神谷村同

盆踊りもある 妙見社祭典

平町白銀町妙見神社例祭は十八日執行の筈で余興として懸賞假裝の盆踊り等があるから定めし盛況を極むらであらうと。

▲簡閲点呼日割

石城郡北部の簡閲点呼日割左の如し

虎丸、樂燕 合同出演

愈々協定成る

當町愛浪家連に依り浪界の横綱鑑甲齋虎丸、東家樂燕の合同出演を切望し其協定に奔走中なる旨既報の通りなるが彌々協定者の熱誠により兩氏は遂に合同出演を承諾し來る廿七日午後二時より平町聚樂館に出演する由、而して虎丸師は過般當町平劇場に開演せる際の如き大人氣を再び平町に博せんと意氣込み樂燕師は飽迄天下の横綱たる資格を藝術の上に競はんとす、斯る大家の競演は平町としては前例なき事にして尤も興味ある興行なりとて愛浪家連中は今より待居る狀態故定めて大入ならん、殊に出演者は何れも一流揃而も日延なし一日間との事であるから開演の曉はその盛況蓋し空前なるものがあらうと。

大和田醫院
耳鼻咽喉科
平町南町
電話一七〇番

内科・外科・耳鼻咽喉科・花柳病科
高久病院
院長　高久忠
平町　電話一三五

石川亭の柳川
お陰樣で開始以來非常な評判を蒙つてゐます。何卒御贔屓の程願ひ上げます。
御一人前　四十錢
牛肉料理　石川亭
田町（電話四三番）

健腦、強精、美血　新藥「神活」
進んで頭腦明晰、元氣旺盛、精力絶倫を望む人は「神活」に依つて滿足せらるべし
代理店　平町一丁目　大平屋藥店
藥價壹圓、貳圓、參圓、五圓　電話六四二番
本舗　株式會社松田博愛堂

◎名畫沸如大日活の面目
日活現代劇部特作大映畫
砂田駒子主演　清水隆二、西條香代子助演
猛闘活劇　秘男子突貫　全八卷
神秘な東洋の傳説と共に幾世紀の昔から幸運の守護神として珍重されて居る琥珀の首飾の周圍に齎さるゝ活劇？
米國パテー社提供大映畫
アリーンレイ嬢、ブルースゴートン氏主演
連續冒險活劇　秘密の扉　全二十卷　第一回五卷上映
第一篇「秘密の扉」　第二篇「紀念の品」
大日活快心の超特作大映畫
河部五郎主演　尾上多見太郎、澤村春子助演
檜山忠史　鬼傑の叫び　全八卷
稗史小説に名高い檜山騒動相馬大作の誠忠錄を物し自己の榮辱を顧みず主君の爲め藩の爲め粉骨碎身する武士道の精髓忠至誠の劍爭史
八月十七日ヨリ　土日曜　學生デー　平館

靴とかばん
◎御注文は特に勉强
◎既成品も豊富にあります
平町搔揶小路（役場前）
福山靴店

平町病醫院案内
内科外科　耳鼻咽喉科　花柳病科　高久病院　田町（電話一三五番）
内科　胃腸病科　梅毒病科　淋病科　松村病院　南町（電話一〇七番）
外科一般　婦人科　耳鼻咽喉科　赤心堂病院　田町（電話四七五番）
外科　專門　上田外科醫院　南町（電話一二九番）
眼科　專門　吉田眼科醫院　紺屋町（電話六八番）
内科、外科　淋病、微毒科　藤沼醫院　紺屋町（電話五〇七番）
内科　外科　婦人科小兒科　花柳病科　磐城病院　田町本通り（電話一一四番）
耳鼻咽喉科　大和田醫院　南町（電話一七〇番）
齒科　專門　原齒科醫院　土橋通り（電話三一番）